特集Ⅰ　子どもの読書活動

子どもたちを本の世界へいざなう

読み聞かせボランティアグループの活発な活動を見ながら、子どもの読書活動の今を探り、次に必要な取り組みとは何かを考える。

昭和小学校６年の朝読書の様子

常盤小学校の図書室。「何、読もうかな…」

「改めて読書の大切さが見直されている。本好きの子どもにすることが大切ではないか」。「読書の習慣化ということでは、家庭での取り組みも大切では」。

８月25日、総合福祉センターで「読書活動を推進する会」が開かれた。学校司書をはじめ地域の読み聞かせボランティアの会員、市図書館職員など27人が出席。子どもの読書活動を進める最前線で活躍している人同士が意見を交わした。

この会は、地域の読み聞かせボランティアグループ、学校、市図書館の連携を図ることを目的に平成17年に発足した。「ネットワークを上手に利用していく活動を目指す」と教育委員会の担当者。行政だけの取り組みでは限界があり、地域の読み聞かせボランティア団体などとの協働による子どもの読書活動を進めることに重点を置いている。

総社市教育委員会では平成17年３月に「子ども読書活動推進計画」を策定した。この計画は、平成17年度からの５か年計画で、家庭をはじめ、学校や地域、市図書館がそれぞれの役割を果たし、相互に連携しながら読書環境の整備を進めていくという方針が示されている。

総社東小学校で読み聞かせ中の絵本のごちそうやのメンバー

ママブックの夏休みスペシャル。大型紙芝居を楽しむ

本好きの子どもがいた

市内には、読み聞かせボランティアグループが約20団体ある。幼児や小学生をもつ母親が自主的に集まり、わが子の通う幼稚園や小学校で読み聞かせを行う。やまておはなしポケット（山手小学校）やもこもこの会（常盤幼稚園）、絵本のごちそうや（総社東小学校・三須幼稚園）は平成12年ごろ発足し、市内では先駆的な存在だ。

やまておはなしポケットの代表の友野玲子さん（岡谷）は、「友人から山手小学校でもやってみないかと誘われて、２人で始めた」と、きっかけを話す。その山手小学校の読み聞かせを見て、「うちの幼稚園にもほしいと思った」とは、もこもこの会の代表だった横田裕子さん（中原）。また、絵本のごちそうやの片山愛子さん（三須）も「子どもたちと関わり合いがもちたいと思い、出た答えが絵本の読み聞かせだった」と、当時を振り返る。絵本が好きだったことや、子どもたちとの関わり合いを求めていたことを、３人は異口同音に口にする。

子どもたちと関わり合いがもちたいと思い、出た答えが絵本の読み聞かせだった